

三川商工会景況調査報告書

1. 調査要領

(1) 調査対象

- ア 対象地区 三川商工会地区内小規模事業者
イ 調査企業数 17 事業所 (うち小規模事業者数 17 事業所)
ウ 回答企業数 17 事業所 (うち小規模事業者数 17 事業所)
(回答率 100.0%)

(2) 調査対象期間

- 平成28年7月～平成28年12月
(調査時点 平成28年12月1日)

(3) 調査方法

- 経営指導員等による巡回または窓口によるヒアリング調査

(4) 調査対象と回答企業の構成

	調査対象		有効回答	
	企業数	構成比	企業数	構成比
製造業	1	5.9%	1	5.9%
建設業	5	29.4%	5	29.4%
卸・小売業	3	17.6%	3	17.6%
サービス業	8	47.1%	8	47.1%
合計	17	100.0%	17	100.0%

2. 地域内産業全体の景況概要

補助事業等の活用により、売上・利益とも「好転した」といった事業所が若干はあったものの、全体で見ると、人口減少・高齢化による顧客・需要の減少により、景況としては「不変・悪化」と回答した事業所が多く、厳しい経営環境に置かれていることが伺える。

【後継者の状況】

「承継者なし」と回答した事業所が75%を占めた。その中で、親族で承継候補者はいるものの「市場環境が不透明であるため承継させたくない」といった声もあった。

親族内承継や従業員等による事業承継を促進することが地域経済の衰退を食い止める一手と考えられるため、「儲かる商売だから継ぎたい」と思えるような事業所を増やすことが喫緊の課題と伺える。

後継者 あり	4事業所	23.5%
後継者 なし	13事業所	76.5%

【売上高】

小規模事業者持続化補助金の活用による販路開拓により、売り上げが増加したと回答した事業者も若干あったが、「人口減少・高齢化による顧客の減少により、売り上げが減少している」と答えた事業所が大半を占めた。

前年同期比			前期比			今後の見通し		
増加	不変	減少	増加	不変	減少	増加	不変	減少
3	7	7	8	8	1	2	6	9

【採算】

売り上げが増加している事業所は、総じて採算性も好転しているとの回答であった。しかしながら、ほとんどの事業所が、前途【売上高】同様に「人口減少・高齢化による顧客の減少により、売り上げが減少している」ことから、「不変・悪化」と回答した事業所がほとんどであった。

前年同期比			前期比			今後の見通し		
好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化
2	11	4	3	13	1	1	10	6

【仕入単価】

仕入れ単価状況においては、業種を問わずほとんどの事業所が「不変」と回答したが、飲食関係の事業所におかれては「天候不良により生鮮食品の仕入れ単価が上昇した」との回答もあった。

前年同期比			前期比			今後の見通し		
上昇	不変	低下	上昇	不変	低下	上昇	不変	低下
1	16	0	0	17	0	1	16	0

【販売（客）単価】

販売（客）単価においては、「増加した」と回答した事業所は皆無であり、ほとんどの事業所が「不変」及び「低下」と回答した。

前年同期比			前期比			今後の見通し		
上昇	不変	低下	上昇	不変	低下	上昇	不変	低下
0	15	2	0	16	1	0	16	1

【資金繰り】

資金繰りについては「不変」と回答した事業所が大半を占めた。余裕がある事業所はさほどないが、苦しいながらも新規の借入は行わず、なんとか資金を回している状況にあると伺えた。

前年同期比			前期比			今後の見通し		
好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化
1	14	2	1	15	1	0	15	2

【雇用動向】

調査対象事業所の多くは、家族のみでの経営のため「不変」と回答したが、一部の事業所では、事業拡大のため新規採用を行ったところもあった。

前年同期比			前期比			今後の見通し		
増加	不変	減少	増加	不変	減少	増加	不変	減少
1	16	0	0	17	0	0	16	1

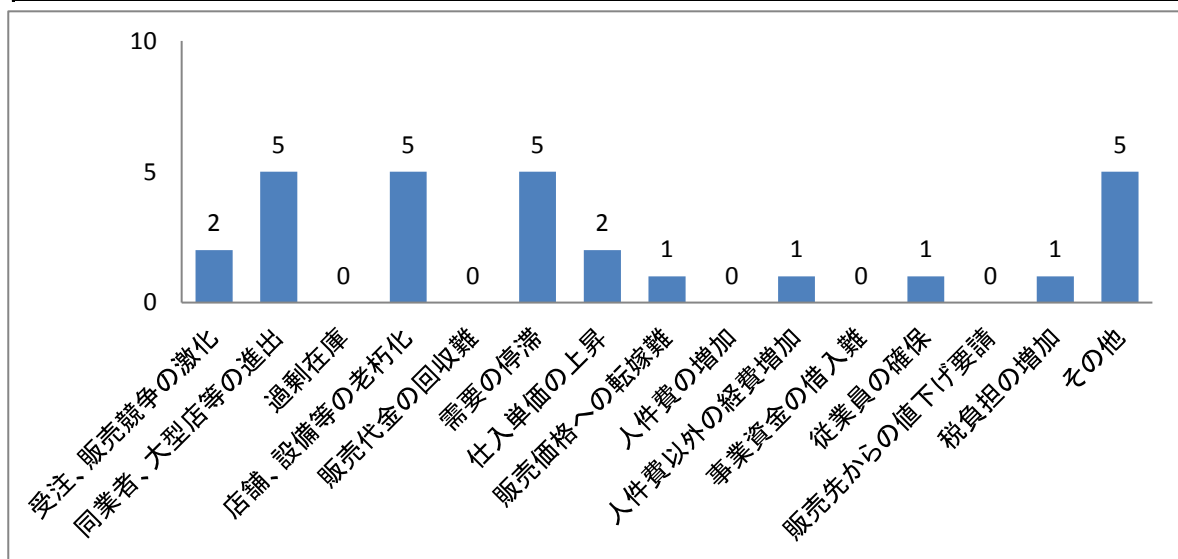
【景況判断】

一部の事業所においては、「好転」と回答したところもあったが、今後の見通しとしては、地域内の人口減少・高齢化、先行きの見えない経済情勢に不安を感じていることから「悪化」と回答した事業所が多かった。

前年同期比			前期比			今後の見通し		
好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化
2	7	8	3	11	3	1	9	7

【経営上の問題点】

各事業所が抱える経営上の問題点としては、「域外からの同業者の進出により脅威を感じている」と回答した事業者も多かったが、総じて、人口減少・高齢化による「需要の停滞」に不安を感じている事業所が多かった。



3. 産業別景況概要

(1) 製造業

原材料の高騰に伴う価格転嫁は比較的出来ているようだが、今後も原材料の高騰が進む可能性があるため、都度、販売価格の適切な見直しが求められる。
また、人口減少・高齢化により、顧客・需要の減少に歯止めがかからない状況にあるため、域外への販路拡大による新規顧客を開拓し、収益の拡大を図っていく必要があると伺える。

(2) 建設業

建築業界におかれては、人口減少・高齢化による需要の停滞により業況は厳しく、建設業界においても、公共工事の減少、小雪による除雪作業の減少により、厳しい状況が続いている。

(3) 卸・小売業

町外の大型店やスーパー、量販店への消費に歯止めをかけることはなかなか難しく、さらに、少子高齢化に伴う人口減少の進展も相まって、厳しい状況に追い込まれている。
一方、特色のある地場産品を取り扱う店舗も増えてきており、域外への顧客を対象とした販路開拓に取り組むなど、今後の生き残りに対して、健闘している事業所も見受けられる。

(4) サービス業

サービス業全体を通じて、域内の人口減少・高齢化に伴う顧客の減少により、厳しい業況は続いているが、小規模事業者持続化補助金等を活用し、域外からの顧客獲得に向けた新たな取り組みを行うことで、売上アップにつなげている事業所もあった。

(様式③)

No.	
-----	--

景況調査ヒアリングシート (平成28年度)

調査対象期間 平成28年7月～12月
(調査時点 平成28年12月1日)

商工会名	商工会	担当職員名	
企業の概要	業種	1:製造 2:建設 3:卸・小売業 4:サービス他	
	従業員数	1:0人 2:1人～2人 3:3人～5人 4:6人～20人 5:20人超	
	企業区分	1:小規模事業者 2:小規模事業者以外	
	後継者の有無	1:有 2:無	

(1) 貴社の状況についてお答えください。(該当する番号に○を付してください。)

	前年同期(H27年7～12月)と比較して	前期(H28年1月～6月)と比較して	今期(H28年7～12月)と比較した来期(H29年1～6月)の見通し
売上	1.増加 2.不変 3.減少	1.増加 2.不変 3.減少	1.増加 2.不変 3.減少
採算(経常利益)	1.好転 2.不変 3.悪化	1.好転 2.不変 3.悪化	1.好転 2.不変 3.悪化
仕入単価	1.上昇 2.不変 3.低下	1.上昇 2.不変 3.低下	1.上昇 2.不変 3.低下
販売(客)単価	1.上昇 2.不変 3.低下	1.上昇 2.不変 3.低下	1.上昇 2.不変 3.低下
資金繰り	1.好転 2.不変 3.悪化	1.好転 2.不変 3.悪化	1.好転 2.不変 3.悪化
雇用動向	1.増加 2.不変 3.減少	1.増加 2.不変 3.減少	1.増加 2.不変 3.減少
景況判断	1.好転 2.不変 3.悪化	1.好転 2.不変 3.悪化	1.好転 2.不変 3.悪化

(2) 貴社の経営上の問題点(下記より上位3つまでを選び、○を付してください。)

- ①受注、販売競争の激化
- ②同業者、大型店等の進出
- ③過剰在庫
- ④店舗、設備等の老朽化
- ⑤販売代金の回収難
- ⑥需要の停滞
- ⑦仕入単価の上昇
- ⑧販売価格への転嫁難
- ⑨人件費の増加
- ⑩人件費以外の経費増加
- ⑪事業資金の借入難
- ⑫従業員の確保
- ⑬販売先からの値下げ要請
- ⑭税負担の増加
- ⑮その他 ()

(3) 今後の事業・経営において強化したい点(設備投資・販路開拓等)

--